

Graded Direct Method Teachers' Group

News Bulletin

第 21 号

英語教授法通信

1969年6月10日

編集・発行・英語教授法研究会 事務局 東京都世田谷区豪徳寺2-27-19 吉沢美穂方 TEL. (429) 5929

アメリカにおけるG. D. M. の現状

萬 戸 克 憲

先月6ヶ月間のプログラムを終え無事帰国しました。滞米中に一度お便りをしようと思いつきながら忙がしい毎日の連続で果せませんでした。申し訳ありません。

今回の渡米ではその目標の一つとしてG. D. M. が今米国内でどのように扱われているかを調べたいと思っていました。テキサス大学で、A. A. Hill 教授(米国言語学会会長日本ELEC顧問)のLinguisticsをとりましたが、レポートでG. D. M. とOral Approachの比較と、G. D. M. の良さを書いて出した所、映画を引用し、G. D. M. はridiculousだとぼろくそにいわれました。G. D. M. がアメリカの一部の言語学者の中では評判が非常に悪い事を痛感した次第です。そしてHill教授のMinimal PairによるDrillとPattern Practiceにあきたらないものを感じつつ、ニューヨークに向かいました。

アーバニでニューヨーク州立大学を訪問した所、Miss Dorris Flinton から、「あなたは日本でG. D. M. をやっているそうだが」と話しかけられ、その午後の大学構内見学をやめて女史の研究室で話しこみました。Flinton先生は、吉沢先生と一緒にRichards教授の下で研究された事もある由、なつかし

そうに話しておられました。Richards 教授、は今もって益々壮健、最近Basic English, International Second Language 及びSo Much Nearerの二冊の本を出版された由、又彼女の講座には現職の教員が多く参加していること、G. D. M. は米国内では主にPrison, Peace Corpなどで、又社会教育としてIlliterate Peopleの指導やおくれた子供の指導に用いているとのこと、現在、アーバニの近くや、ボストン、ハーバード、米国中西部など各地の学校で効果をあげているとのことでした。又国外では、イスラエル、スイス、フィリピンなどでも最近の好成果が報告されているとのことでした。最後に日本のG. D. M. のみなさんに、「われわれは人数は少数だがそれだけにきずなは固い。しっかりやりましょう」と伝えてくれとたのまれました。

G. D. M. についてはほとんどあきらめかけていただけにFlinton 女史に出会ったのは、私にとって非常に幸運だったといえます。そこで女史から紹介のあった、バスで一時間程北のGlens Falls という所にあるSan Fort Street SchoolにMiss Daneを訪問しました。この小学校の校長である女史の説明で

は、家庭環境その他で入学当初文字に抵抗を感ずる者がかなりいる。そこで一学年大体250人位の中からその四分の一を pick up してクラスを編成。それに対して約半年間

First Steps in Reading English (By Christine M. Gibson and I. A. Richards) This Is Book One. を用いて指導する。

又、2年3年に対しても同じように Slow learners に対し Book 2.3.4 を用いてやっているとのこと。この本を採用の理由として語いがやさしい。文型が簡単、などから児童が容易に自分のものにすることができ、さら

に creative な使い方もできるようになるとのこと。

さて実際のクラスでは一年生14人のクラスを8人と6人にわけ、黒板にプロジェクターを用いて本文を映写しながら学習していました。

ボストンの方へは行く時間的余裕がありませんでしたが、G. D. M. が米国でも熱心な教師達によって、研究され、用いられていることを知ったのは、私にとって大きな収穫でした。以上私のかいまみたアメリカでのG. D. M. についての報告です。

【名著紹介】

ベーシックについて これ一冊あればたりる本

ベーシックについて、なにかいい本はありませんか、ときかれるたびに、C. K. Ogden, The System of Basic English をすすめることにしていた。この本はベーシックについてと、ベーシックそれ自体について一語一語でいねいに説明した部分、それからベーシックでかかれた実例があつめられていた。とくに一語一語の意味と使い方について詳細に説明した部分は、われわれにとって勉強になるものであった。

ところが、この本が絶版になり、こまったことになったと思っていたら、その改訂増補版として Basic English: International Second Language がでた。こんどはベーシックについての序論は、オグデンの本、Basic English をそのままつかっている。さらに、便利な本 The Basic Words 一冊が最近の修正をいれて、全文のせられている。ベーシックそれ自体についての使

い方などの説明はいままでどおり The ABC of Basic English をそのまま再録している。つまり、Psyche Miniature で出されていたオグデンの古典的三部作がぜんぶここに顔をそろえている。プラス実例において、最近の仕事がくわえられているのは当然である。

ベーシックがそれほどいいものなら、もっと多くの人が使っているはずだが、という批判に対しては、ベーシックそれ自体の欠点によるのではなくて、もうけ主義の本屋によるじゃまと、頭のかたい官僚たちが仕事をさぼったことなどの事情について、ロンドン大学の Professor Lauwerys が The Royal Society of Arts で発表した報告にのべられているが、これも付録としてつけられている。

ベーシックについて、これ一冊あれば足りる本として、すいせんする。

C. K. Ogden; Basic English: International Second Language, ed by E. C. Graham, foreward by L. W. Lockhart (New York: Harcourt, Brace & World, Inc., 1968) \$7.50

(片桐ユズル)

Additional Vocabulary

こぼればなし

吉 沢 美 穂

もう20年もEnglish Through Pictures を使って英語を教えていて、Teachers' Handbook を書いたり、偉そうな顔をして、他のかたの授業を批評しているわたくしが、こんど東山さんとAdditional Vocabulary for English Through Pictures Book One

(以下Add. V. と略称)を作ってみて、実はETPについて、まだ知らないことがたくさんあったことを発見した。すくなくとも内容語に関しては、Book Iにあるかないかは知っていても、どのページで、どのようにして導入されるかについては、今までのわたくしは無関心であったということが出来る。これは、ETPで教える時には、内容語は、必要に応じて足してもよいという方針に従っていたためであるが、これは言いわけにはならない。ことにBook IIのvocabularyについては、いまさらながらの“おどろき”を感じたことを告白しなければならない。

Add. V. を作成することによって、Book IとIIのvocabularyが、はっきりと頭のなかに焼き付けられ、ETPのすばらしさを今さら再発見したことは、あの小さな青い本ができあがったこと以上のよろこびであった。

まず最初の“おどろき”は、Thorndikeの1,000語のうち、約700がETP Book IとIIに含まれているということであった。(Add. V. p. iii 参照)言うまでもないことであるがThorndikeはfrequencyによって選ばれた語表であるのに対して、ETPはusefulnessによって選ばれたBasic Englishを基盤にしている。従ってETPのvocabularyは、何か異質の特別な単語が使われているというような批判や、おそれがあったかもしれない。

しかし今は、Book IとIIを併わせみれば、まったくそれは根拠のないものであることを証明できるようになった。

この2、3年間わたくしは、ETPの精神による他の教材を作成しているが、その教材が、使われる状況などから、単語の数、ことに動詞をたくさん使用している。ETPに出てこない動詞と簡単に考えていたこれらの単語の大部分、eat, drink, buy, live, want, playなど初歩的なものはBook IIに動詞として使用されている。また、Book IにもBook IIにも出てこない単語のうち、banana, bus, piano, baseball, footballのように、国際的に通用するような単語が多いのは、特別にETPのページを使って教える必要はないと著者が判断したためであろう。

次にAdd. V. のiiiページ、“調査の方法と経過の5. “ETP Book Iの段階では、教える必要がない。または教えないほうがよい”と判断された単語をしらべてみると、中学教科書とETPの単語の性格があらわれていておもしろい。除外された単語は、大体において次のように分類することができる。

(1) diary, camp, tent などのように、必要な時には、容易に教えられる内容語。

(2) enter, reply, decide のようにBook Iで学習した文で発表できるので、急いで教える必要もないし、容易に教えられるもの。

(3) pleasant, wise, honest, merry, joy, comfortable, wonderful, noble, indeed, honor などのように、感情などを表現する抽象的な単語。ここに例示した単語のうち、終りの5語は、Thorndikeには、含まれていないが、教科書には多く出てくる単語である。

この種の単語が、教科書に多く含まれているということは、中学では、具体的なことを直線的に、英語的に発表する練習よりも、センチメンタルな題材、すなわち物語りなどが多く含まれていることを示している。中学の教科書のこのような傾向は、日本人が英語的な具体的な表現ができないことの原因になっているのではないだろうか。

(4) finish, already, yet など。Book I を終った後導入する文型と共に教えたほうが効果的なもの。

以上のほかまだいろいろ気が付いた点をあげればきりが無いが、ETP Book I が終わったら、full English への橋渡しとして、Book II を使用するのがもっとも効果的であるということ強調したい。(ICU講師・英語教授法研究会代表)

にゆうず News ニュース:

鈴木弘之さん、相変らず福井で EP2 とりもくみ、発表した研究を本号にもまとめてくれた。

吉田竜恵さん、情熱的に EP1 を生徒に教えている。彦根論叢(44年1月)に English in Advertising をのせた。便りを下さるのが、大変うれしい。

岡部幸枝さん、目下二児の母として格闘中。関西支部では、有能な実践家が一人ぬけて、大あわてとか・・・

万戸克憲さん フルブライトで渡米中、アメリカの GDM について我々に最新のニュースをくれた。本号を参照して下さい。本年3月無事帰国。

矢ヶ崎庄司さん ICU 大学院を今春卒業後平安女学院短大講師となる。東京サバクに、

アイソをつかして西部へ大移動か? おかげで期待していた東京支部はポカアン! としている。

下田晶彦さん MRA のナントカでアメリカ各地を回って、そのみやげ話を東京支部5月例会ですてくれた。

藤本一臣さんの学校(日大二高)をかりて、いつも例会をやらしてもらっていたが、この度学校の都合で、借りられなくなり東京支部では、会場探しに四苦八苦している。つまり生徒を demonstration 用にカクホ出来る場所を提供してくれるところがないので困っていたら、

萩原敬一さんが、ある品川の中学に交渉してくれた。唯今このことにつき慎重に検討中。中学生に週1~2時間教えながら、実践してくれる人を求めています。

小松川三中で、核の一人になっていた山田初裕さんは 今年四月から、都立王子工業高校定時制に転任。

久野 木さんは、鳥取大学に転任。

高橋美智さんは町田市木曽町797-3 境川住宅50-20 (tel 0292-51-2871) に移った。

宇野可南さん 水野さんと姓をかえた。(といえど……………) 横浜市神奈川区入江1-15 昭電新子安社宅224号 が新居。

東京と鎌倉の合同月例会は、3月27日 鎌倉横浜銀行で行なわれた。関西の田村美智子さんも参加。日本もセマクナッタな。

福岡の幸松栄一さんから便りあり。小学生、中学生を相手に EP1 や中学英語と格闘中。又お便り下さいね。ペーパーteachersより、一人の実践家がいることが、とてもうれしい。EPは 版が大きくなって360円になった。詳細はタトル商会へ。

瀬川俊一さんは 県立静岡女子短大へ移った。Advanced Summer Seminar は、過去に講習会をうけた人だけを対象にしています。本号8ページをご覧下さい。などなどなどetc.

AN INTRODUCTION TO ENGLISH THROUGH PICTURES, BOOK 2

鈴木弘之

上にかたぐるしい表題をつけましたが、はじめにおことわりをしなければなりません。この拙稿は、私の勤務する福井県立羽水高校研究集録の中の原稿の summary なのです。したがって、断片的であり、バランスがとれていなかったりして、その上、私自身 English Through Pictures (以後 E P と略す) を片手にヨチヨチ歩きをしているにすぎませんから、読みづらいことも多いでしょうが、その点お許し下さい。まず次のような項目に分けて、私の考えていることをまとめてみました。

I. はじめに

- A. English Through Pictures, Book 1
のりんかく
- B. English Through Pictures, Book 2
のりんかく
- C. Sen-Sit (文・場面連合)

II. Basic English

- A. その基礎と目的
- B. 語いとその分類
- C. 主要作用語 (Operators)
- D. 文法

III. English Through Pictures, Book 2 の語い

- A. 約1,000語の内訳
- B. 人名

IV. English Through Pictures, Book 2 の内容

- A. pp. 50-54 の場合
- B. 全体のまとめと相互の関係

V. English Through Pictures, Book 2 の授業の一方法

- A. 目的

B. 授業を進めるときの留意点

C. 新教材導入の具体例

D. 評価

以上の中から紙面の許す限り、ポイントを拾ってみましょう。

IA. E P 1 のりんかく

E P 1 は Basic English (以後 B E と略す) を使用して、I. A. Richards と C. Gibson が、1945年に発表した一種の教材である。これは、学習者の発表能力養成を主目的として、段階式教授法によって教授することを前提としている。E P 1 の preface (pp. 17-18) に、この書のりんかくと使用法が要領よくまとめられている。

IB. E P 2 のりんかく

E P 1 が最初の英語学習用に作成されているのに対して、E P 2 は、次の段階用に作られている。その目的は、単に語いや文型を学習させるのみでなく、それらの内容との関連性がきわめて密接かつ豊富で、読者は知識の宝庫の中へ吸い込まれていくようである。したがって、語学学習書というより、社会人のための教養の書であり、それを豆百科事典と呼ぶ方が適切なかもしれない。E P 2 の目的は、The Way to More English と題して、表紙に要領よくまとめられている。

II B. 語いとその分類

はじめの 850 語を分類すると次のようである。

(1) 事物語 (Things)	600	一般語	
		(general)	400
		絵にかける語	
		(picturable)	200

B E 850	(2) 性質語 (Qualities)	150	一般性質語 100 (general)
			反対性質語 50 (opposites)
	(3) 作用語 100 (Operations)	100	主要作用語 18 (operators- verb-forms)
			方向語 20 (directives)
			その他 62 (particles, etc.)

II C. 主要作用語 (operators)

B E は、動詞のない言語 ("no-verbs" language) と呼ばれているように、動詞16、助動詞2 だけである。この18語を作用語の中の方向語とを組み合わせることによって、4000以上の動詞相当語を生み出し、それを活用するところにB Eの特色がある。主要作用語と方向語との連結の基本的な方法は、室勝著：500語のできる英語会話(評論社、S. 43. pp. 122-123)にある同心円を用いるとわかり易い。

II D. 文 法

B Eの運用法を説明する文法書にThe ABC of Basic English (by C. K. Ogden, London, 1932)がある。B Eの文法については割愛することにして、EP 2の英語を文法的立場から調査してみた結果では、simple sentenceの率が高いこと、比較に関する文型がきわめて多いこと、絵との関係のためか、定冠詞theが多用されていることなどが、特筆すべきことであろう。とくに比較文型に焦点を合わせて調査するのも有意義なことであろう。

III A. 約1000語の内訳

EP 1はおおよそ500語のB Eから成り立っている。EP 2では、EP 1の語いに527の新語が加えられている。そのうち動詞の数は146語である。一口にいえば、EP 2の英語は、B Eとfull English との中間にあるといえよう。これは一般の語いを限定したテキストとは異

なり、ち密な計算と心理学的、意味論的配慮にもとづいて、同じ語句が明確な場面のもとに段階的にくり返し出てくるので、その意味と語法が自然な形で身につくのである。

III B. 人 名

William Harveyを最初に、33名の重要な歴史的人物が現れる。彼らは気まぐれに顔を出すのではなく、語い・語法・文法を学ぶ立場と、知識教養を高める二つの立場に立って明確なSen-sitのもとに登場する。その中心となる人物はGalileoである。

IV. EP 2の内容

約1000語の語い・語法と内容との関連性はきわめて大きい。それらが学習者に何を訴えようとしているのか、その目的を常に明確にしている。訴える内容は、次の二つに大別されよう。(1) 'important ideas handed down from the past' (2) 'key questions facing all of us today' こうした人生の問題も、それらが個々に述べられているのではなく、過去・現在・未来の上に立ち、可能な限り具体的に、平易な表現を用いて、さらに絵や図表をフルに活用して、英語を母国語に置き換えることなしに、理解できるように表現されている。語い・語法・文法と内容との関係は全く表裏一体で、いずれが軽視されてもEP 2は存在しえないのである。それを一つの球にたとえるならば、最初は 'I am here.' という最も小さな世界から出発して、語法も内容もページを追うにつれ、段階的に増大し、最後には、人生とは何ぞやという難解な問題を包含した大きな球に成長している。いわば無限の宇宙に成長しているのである。

そしてこの大きな間に対する答えは、他から与えられるはずがなく、結局 'I am here' に逆戻りして自分自身で考えねばならないのである。こうした作用を著者は、'feed-back' 'feed-forward' と呼び、この書全体が 'feed-back', 'feed-forward' に終始し、また宇宙

全体がこうした作用のもとに一つの大きな調和を保っていると説いている。

V. EP 2 授業の一方法

A. 目的

- (1) 英語を聴きながら、内容を理解する。
- (2) 大切な語法・文型をよく聴き、口ならしをしてから暗誦し、それを用いて自分の考えを発表しあう。
- (3) この書が提示している種々の問題をよく考える。

B. 授業を進めるときの留意点

- (1) 語法・文型・内容を学習するさいに、日本語による説明は原則として与えない。
- (2) 前時に学習したことを、story を追って発表する。
- (3) 本文中の key-sentence および本文の理解を助けるための key-sentence をくり返し口頭練習し、productiveな段階にまで発展させる。
- (4) 新しい語い・語法・文型を導入するさいには、次のことに注意する。
 - (a) 明確な Sen-sit を設定する。
 - (b) 未習の語句や語法を用いない。
 - (c) 絵・写真、実物又はgestureによって具体的に表現できるものに限定する。

(d) 平易、具体的なものを先に示す。

(e) 新しい事項を既習のものと比較対照させる。

(5) 英文を文字で与えるときには、sense-group ごとに区切る。

(6) 一時間の授業の進め方については、前時の復習15~20分、新教材の提示30~35分

(7) 教材教具としては、テープコーダー、四ツ切り画用紙にかいた絵や文型、新聞雑誌、カタログ、実物、etc.

D. 評価

(1) 授業時間中

- (a) true or false questions: 新教材提示後の数分
- (b) 暗誦: 前時学習内容
- (c) questions and answers: 前時学習内容

(2) 期末および中間考査

(3) 日本英語検定協会による実用英語検定筆者だけの評価では客観性に欠けるのでこれを利用している。昭和43年度の結果は、2年女子コース96名中合格者77名で、80.2%の合格率であった。

(福井県立羽水高校教諭)

English Through Pictures, Books 1 and 2	¥ 360 each
First Workbook of English	¥ 220
First Steps in Reading English	¥ 220
Teachers' Handbook for English Through Pictures	¥ 400
Anglophone Records for English Through Pictures	¥ 10,000 each
Filmstrips for English Through Pictures, Series 1 and 2	¥ 17,000 each
(海外注文)	

チャールズ・E・タトル商会

神田店 東京都千代田区神田神保町1-3

TEL. (291) 7071

高島屋店 東京都中央区日本橋高島屋

6階 TEL. (211) 5029

Graded Direct Method

Summer Seminar のお知らせ

とき : 1969年8月15日(金)~19日(火)

ところ : 東山荘 (静岡県御殿場市東山)

講師 : 吉沢美穂 (ICU 講師・ハーバード
大学言語研究所日本代表)

東山 永 (GDM鎌倉グループ代表)

伊木英子 (東洋英和小学校講師)

片桐ユズル (松蔭女子大学助教授)

升川 潔 (東京女子大学短大部講師)

中郷安浩 (大阪市大講師
スピーチ・クリニック担当)

内容 : Graded Direct Method の理論と
実際を、小学5.6年生クラスで実習し
たり討論しながら習得する。ほかに
スピーチ・クリニック、レクリエー
ション、特別プログラム、etc。

資格 : 英語教師または英語教師になろうと
する人

費用 : 受講料5,000円(申込金をふくむ)

宿泊料6,000円(4泊食事付)

ほかにテキスト代

申込方法 : 申込金1,000円を同封して7月31
日までに大阪市西区土佐堀2丁目12
大阪YMCA英語学校GDM Seminar
係まで申しこんでください。Tel.
(06)441-0892 ただし定員50人に達
ししだいしめきります。

なお、すでにGDM Seminar を修了した方の
ために上級コースが準備されていますが、こ
れの詳細は東京都世田谷区豪徳寺2-27-19
吉沢方英語教授法研究会に問いあわせてくだ
さい。

共催 : 英語教授法研究会
大阪YMCA英語教育研究所

好評重版なる！

絵を使った文型練習

国際キリスト教大学講師 吉沢美穂 著

英語入門期に視聴覚的な教授法が役立つことは
論をまたないが、その効果的な用法は十分に研
究されているとは言えない。本書の著者はハー
バード大学のI・A・リチャーズ博士のもとで
言語伝達の理論に基づいた英語教授法を学び、
爾来十余年にわたる研究と実践を一冊にまとめ
た。ここに扱われた文法事項、語法、基本語は
三百に及び、教科書の種類、学年に関係なく、ペ
ージを開けば絵を使った文型練習が得られる。
練習の効果を高めるために初・中・上級別のワ
ークブックを添えた。

中学校、高校、講習会、家庭での学習に最適

A5判函入(テキスト一冊
ワークブック三冊添付)

定価六五〇円

東京都千代田区神田錦町3-26 大修館書店 Tel(291)3961-5